

直近の新型コロナ等の感染症の発生状況等

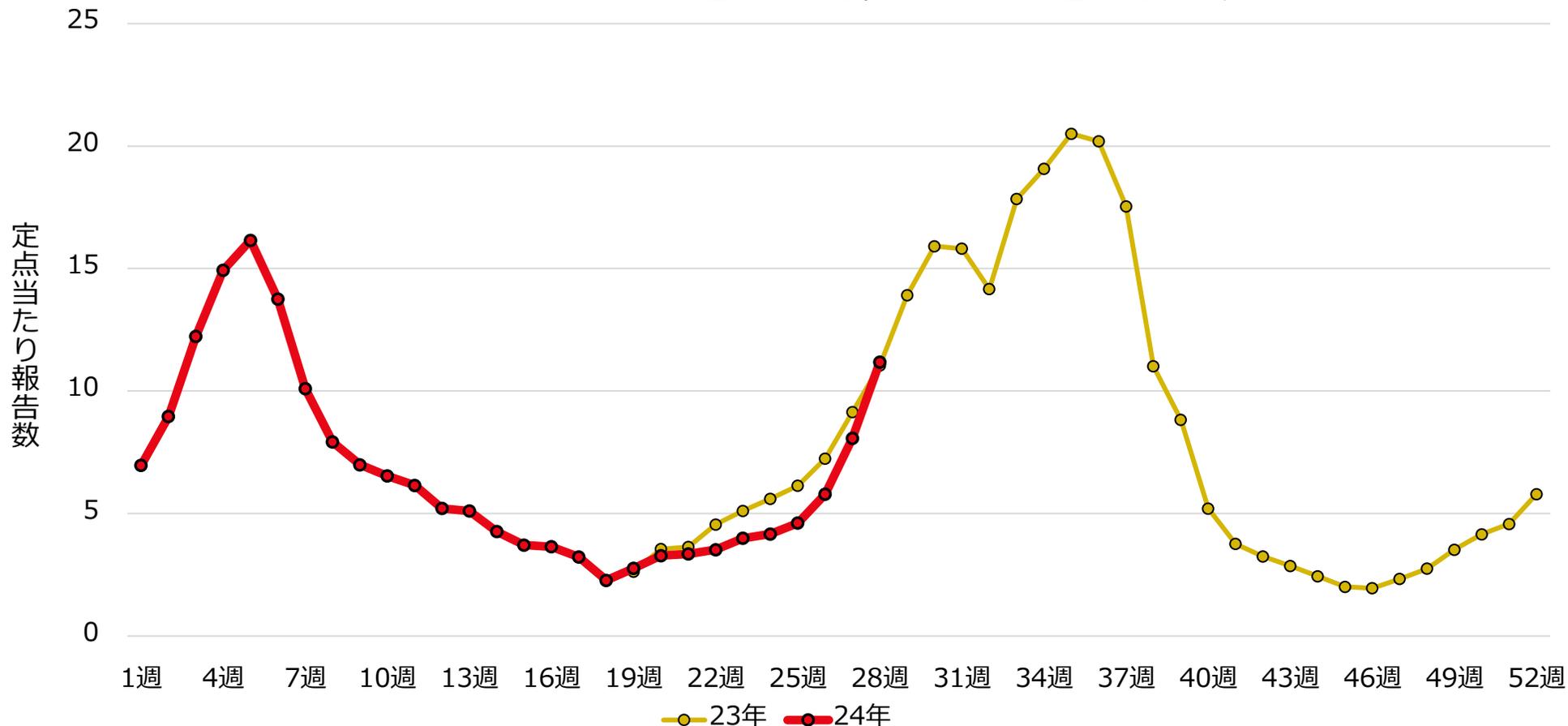
直近の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生状況

<直近の日本国内での報告状況>

- 定点医療機関から報告される1週間ごとの新規患者数で見ると、第28週（2024年7月8日～7月14日）は11.18（前週比で1.39倍）となっており、第19週（2024年5月6日～5月12日）以降、10週連続で増加。

（参考）新規患者数の推移 4.16（6/10-6/16）→ 4.61（6/17-6/23）→ 5.79（6/24-6/30）→ 8.07（7/1-7/7）→ 11.18（7/8-7/14）

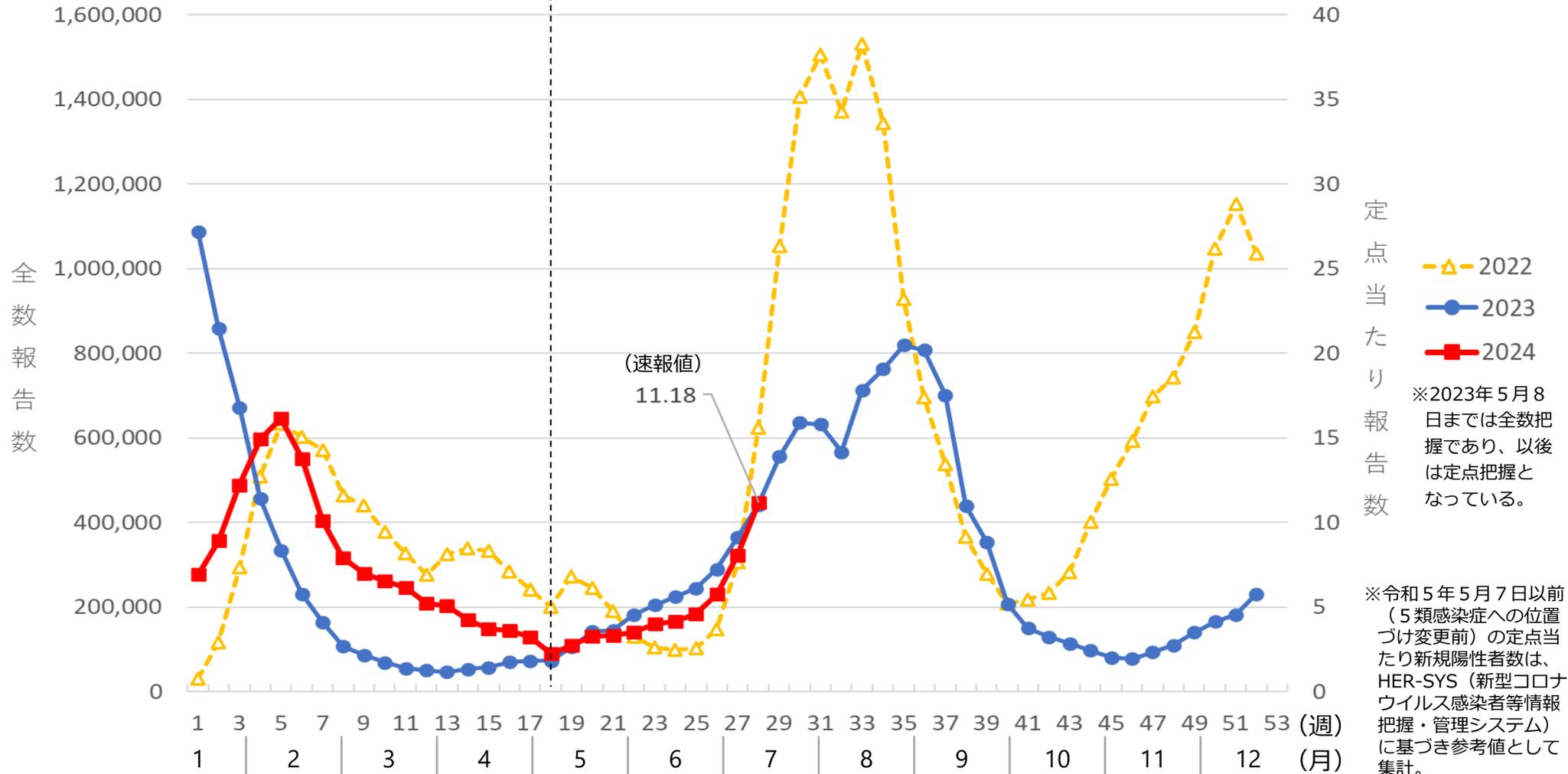
【新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数の推移（全国）】※速報値



全国の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生動向について

令和5年5月8日

※第28週は速報値のため今後訂正される可能性がある。

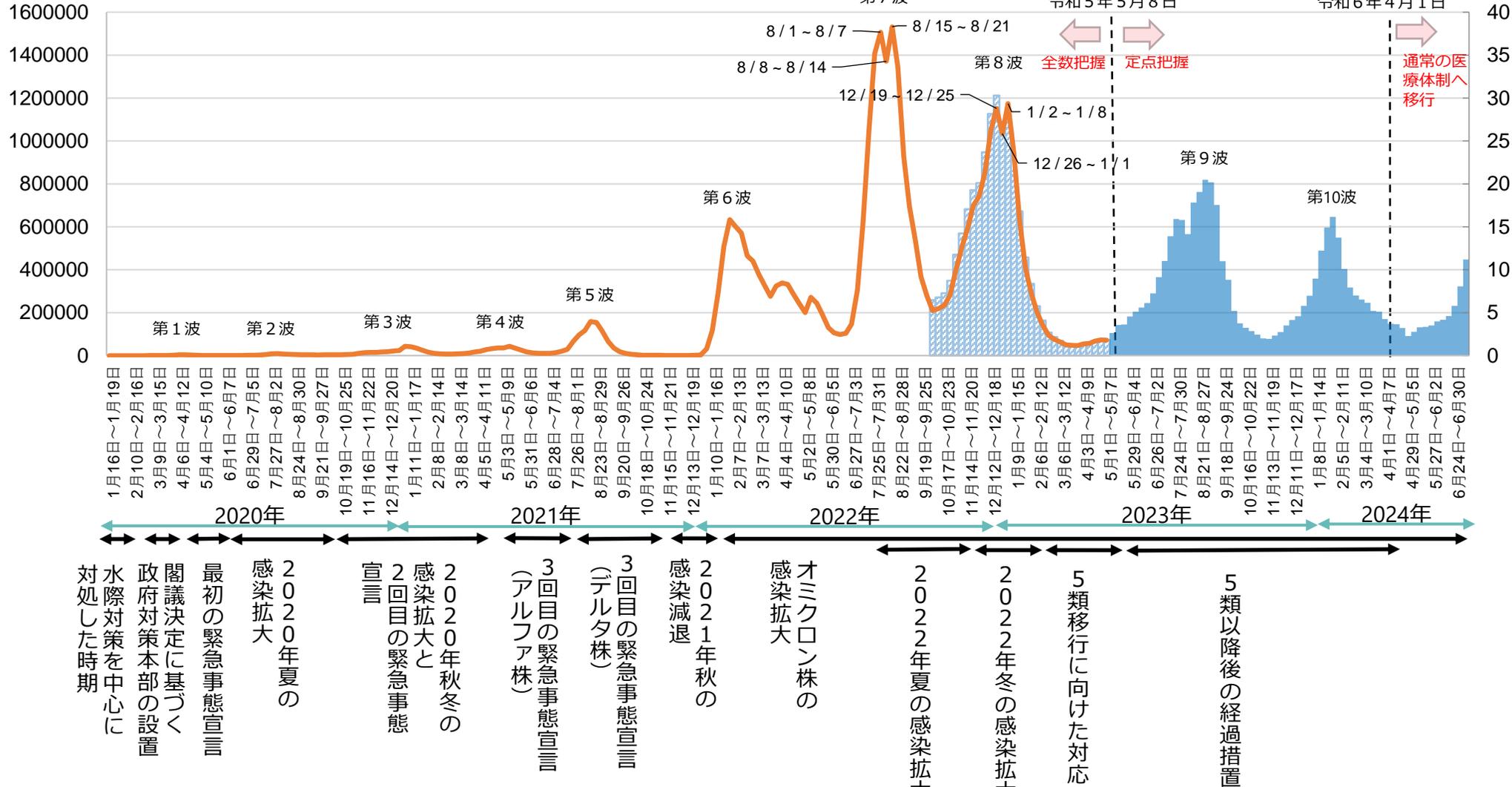


出典：新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料（発生状況）2024年 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00461.html
 新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料（発生状況）2023年 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00438.html
 新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料（発生状況、検疫事例）2023年5月 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00432.html
 新型コロナウイルス感染症サーベイランス週報：発生動向の状況把握（感染研） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2484-idsc/10754-2021-41-10-11-10-17-10-19.html>

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）新規陽性者数の全国推移

1週間合計
新規陽性者
数（人）

定点当たり
新規陽性者
数（人）

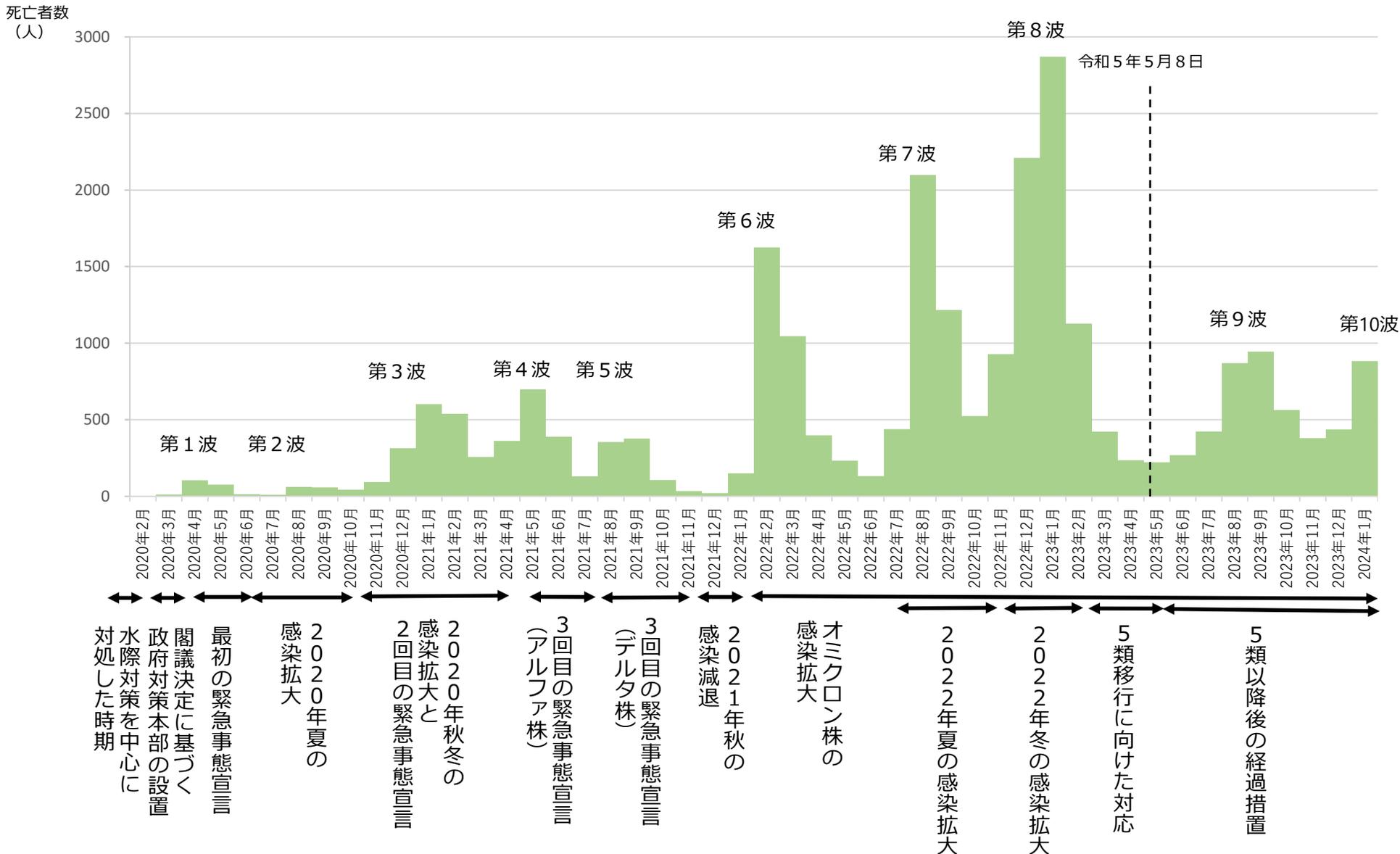


* 令和5年5月7日以前（5類感染症への位置づけ変更前）の定点当たり新規陽性者数は、HER-SYS（新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理システム）に基づき参考値として集計。

* 折れ線（橙色）は、1週間合計の新規陽性者数。

出典：令和5年5月まで「新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料（発生状況、検疫事例）」、令和5年6月以降「新型コロナウイルス感染症に関する報道発表資料（発生状況等）」

新型コロナウイルス感染症（COVID-19） 死亡者数の全国推移



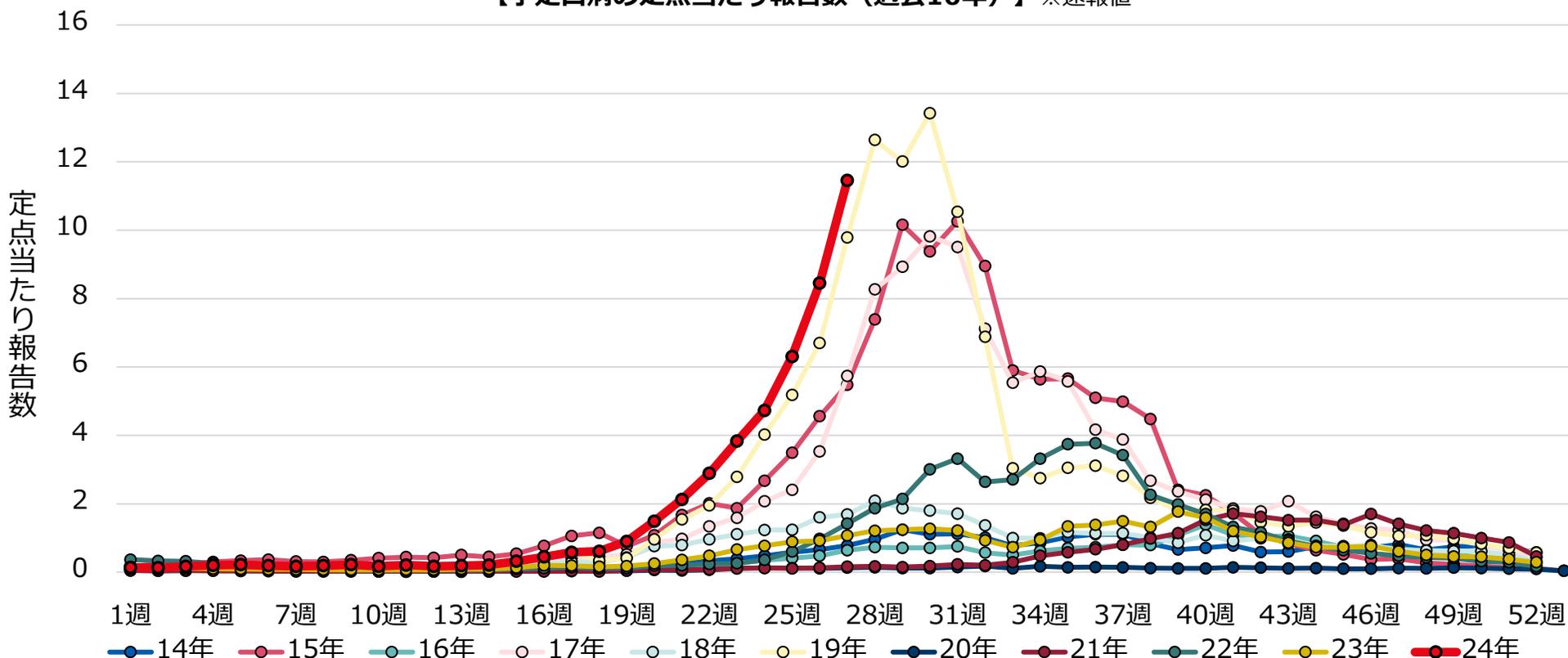
※死亡数（人口動態統計）については、「死亡診断書（死体検案書）の情報を用いたCOVID-19関連死亡数の分析」に記載されている月毎の死亡数をその月の週平均に換算しています。
 出典：人口動態統計月報（概数）

直近の手足口病の発生状況

<直近の日本国内での報告状況>

- 近年減少していたが、本年は2019年以来の流行となっており、第13週（2024年3月25日～3月31日）以降、15週連続で増加。
- 第27週（2024年7月1日～7月7日）の定点医療機関当たりの速報値（全国）は11.46（前週比1.35倍）となっており、38都府県が「警報レベル※」とされる5を超えている。

【手足口病の定点当たり報告数（過去10年）】 ※速報値



※感染症発生動向における基準値（警報、注意報）について

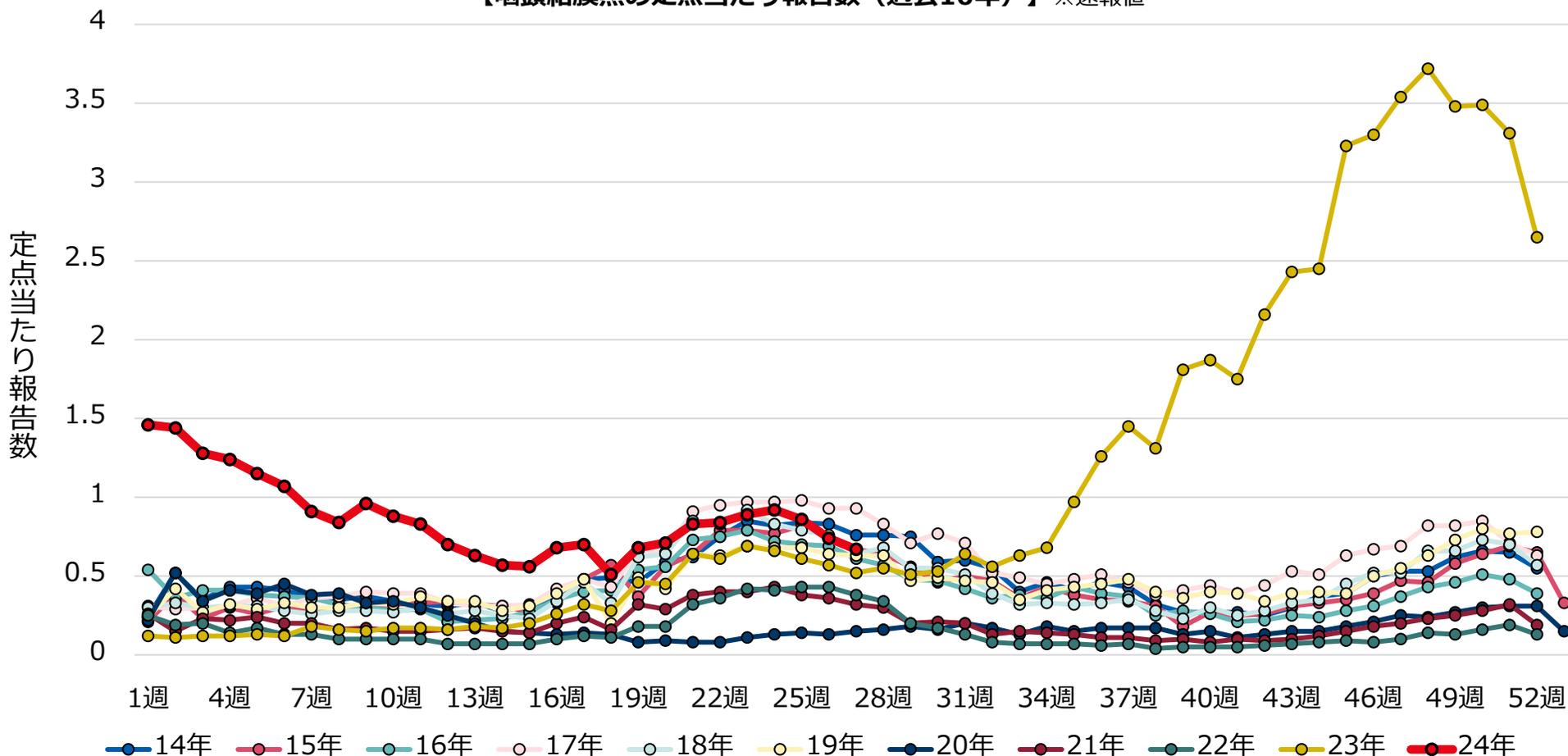
基準値について、過去データを基に厚生労働科学研究等にて検討。国として統一した値を示した経緯はないものの、研究結果を共有し、各都道府県の判断にて活用されている。「警報」とは、流行状況が過去の発生状況から比較的まれ（1%程度）にしか生じ得ないほど大規模なものである。

直近の咽頭結膜熱の発生状況

<直近の日本国内での報告状況>

- 第25週（2024年6月17日～6月23日）以降、3週連続で減少。第27週（2024年7月1日～7月7日）の定点医療機関当たりの速報値（全国）は0.67であり、現時点で「警報レベル※」とされる3を超えている都道府県はない。

【咽頭結膜熱の定点当たり報告数（過去10年）】※速報値



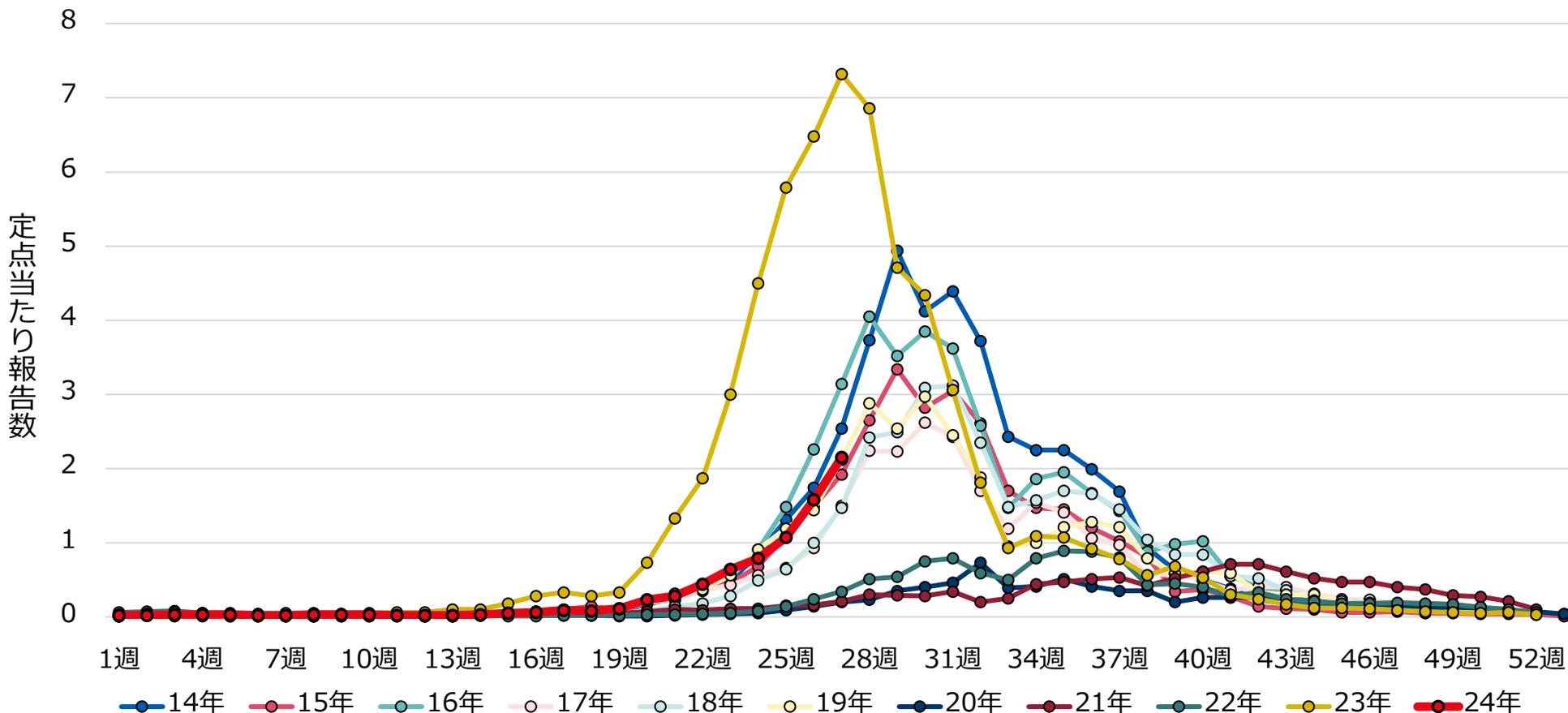
※感染症発生動向における基準値（警報、注意報）について
 基準値について、過去データを基に厚生労働科学研究等にて検討。国として統一した値を示した経緯はないものの、研究結果を共有し、各都道府県の判断にて活用されている。「警報」とは、流行状況が過去の発生状況から比較的まれ（1%程度）にしか生じ得ないほど大規模なものである。

直近のヘルパンギーナの発生状況

<直近の日本国内での報告状況>

- 第19週（2024年5月6日～5月12日）以降、9週連続で増加。第27週（2024年7月1日～7月7日）の定点医療機関当たりの速報値（全国）は2.15であり、現時点で「警報レベル※」とされる6を超えている都道府県はない。

【ヘルパンギーナの定点当たり報告数（過去10年）】※速報値



※感染症発生動向における基準値（警報、注意報）について

基準値について、過去データを基に厚生労働科学研究等にて検討。国として統一した値を示した経緯はないものの、研究結果を共有し、各都道府県の判断にて活用されている。「警報」とは、流行状況が過去の発生状況から比較的被れ（1%程度）にしか生じ得ないほど大規模なものである。